

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02666

研究課題名（和文）近現代朝鮮文学と翻訳者たち：1940-60年代日米韓の朝鮮人米軍通訳研究

研究課題名（英文）Interpreters in Korean Literature in Modern Times: A Study of U.S. Military Linguists in Japan, the U.S., and South Korea between the 1940s and the 1960s

研究代表者

宋 恵媛（Song, Hyewon）

大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：60791267

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1940-1960年代にかけて日本、米国、朝鮮で活動した、朝鮮人米軍通訳、翻訳者とその文学、表現行為について分析した。アジア・太平洋戦争期から朝鮮戦争期にかけての、知られざる米軍通訳たちの実証的解明を行い、それを踏まえて各地域で作家、表現者となった元通訳、通訳者たちが日本語、英語、朝鮮語で書いた文学作品の比較分析を行った。それにより、朝鮮の近現代文学を「国民国家」や「国語」の枠を超えて把握する視点を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまでほとんど知られていなかった米国および日本における米軍通訳の実態を実証的に明らかにしたこと、朝鮮人文学研究に複数言語、複数話者という新たな視点を導入したことである。それにより、ポストコロニアル翻訳理論、コリアン・アメリカン文学研究、在日朝鮮人文学研究、韓国文学研究、日本（語）文学研究、移民研究などの深化にも貢献することが期待される。また、研究成果を学会発表や論文、著書刊行という形で日本、韓国、米国、ロシアで公開することで、今後の国際研究に繋げた。研究期間中に行った資料集や翻訳書の刊行は、後続研究のための基盤づくりの意味合いを持つ。

研究成果の概要（英文）：This study explored Korean interpreters who worked for the U.S. military between the 1940s and the 1960s and their writings in Japan, the U.S., and South Korea. Based on empirical research on previously under-researched Korean interpreters during the Asia-Pacific and Korean Wars, this study compared and analysed literary works and memoirs written by some of these interpreters in either Japanese, English, or Korean. This will provide a new viewpoint not only to South Korean academia but to the U.S. and Japan in understanding modern Korean literature beyond the conventional framework of 'national literature' and 'national language'.

研究分野：コリアン・ディアスポラ研究

キーワード：米軍通訳 コリアン・ディアスポラ 占領期 OSS SCAP/GHQ 近現代朝鮮文学 在日朝鮮人文学 翻訳研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

植民地解放以後も日本にとどまった在日朝鮮人作家たちは、朝鮮語と日本語の間で、冷戦体制の中で脱植民地化を模索していった。19世紀後半以降の朝鮮人の移動は、日本ばかりでなく、米国、中国、旧ソ連など多くの地域に及んでいる。それぞれの場所への移動の過程で、朝鮮人たちは新たな言語との接触、文化の衝突と相互流入を経験した。それらのコリアン・ディアスポラのうち、米国へ渡った朝鮮人たちは、米軍占領を経験し、その後も米国の強い影響下に置かれた在日朝鮮人たちと共通する部分が多々ある。コリアン・アメリカンと在日朝鮮人という、二種類の朝鮮人ディアスポラ文学の影響関係を探るうちに、米軍通訳の経験を持つ作家、あるいは米軍通訳を主題とする文学作品の多さとその重要性を認識するに至った。米軍通訳は、アジア・太平洋戦争期の米国ばかりでなく、敗戦後日本のSCAP / GHQ、南朝鮮に設置された米軍政庁などでも生まれた。むろん、1950年に勃発した朝鮮戦争でも多くの通訳が速成された。だが資料の制約などから、その全体像は解明されていない。また、通訳者たちと近現代朝鮮文学を結ぶような視点も、関連する地域である日本、韓国、米国における従来の研究にはなかった。そのような研究状況を踏まえ、それら複数の言語、文化の媒介者としての朝鮮人米軍通訳・翻訳者の実態を明らかにしながら、日本、韓国、韓国でその後それらの人々が生んだ文学を、比較考察することを構想した。

## 2. 研究の目的

本研究は、1940-1960年代を対象として、日本、朝鮮半島、米国における、朝鮮人通訳、翻訳者とその文学、表現行為について分析することを目的とする。米軍通訳たちの実態の実証的解明を進めながら、各地域で作家、表現者となった元通訳、通訳者たちによる「近現代朝鮮文学」の比較分析を行うものである。この作業を通して、従来「韓国文学」、「在日朝鮮人文学」、「アジア・アメリカン文学」などと別個に範疇化されていたものを、朝鮮語、日本語、英語という三つの言語を横断する「複数形の近現代朝鮮文学」として把握する視座を提示する。これは、植民地以前と以後をまたいで朝鮮の近現代文学をとらえる試みであり、また、コリアン・ディアスポラ文学における日本 / 日本語およびアメリカ / 英語の影響を考察するものでもある。

## 3. 研究の方法

本研究の方法は、(1)先行研究調査と理論研究、(2)文献調査と聞き取り調査、(3)作家と作品の比較分析、(4)ディアスポラ文化、文学に関する資料の整理という四つの柱からなる。

(1)は、先行研究調査と理論研究英語圏のポストコロニアル翻訳研究の精査、日系および朝鮮系アメリカ人研究関連の先行研究の比較調査、そして日本の植民地 / ポスト植民地状況に即した翻訳理論の構築からなる。(2)の文献調査と聞き取り調査では、米軍通訳・翻訳者の実態解明のため、米軍関連資料、コミュニティ新聞や雑誌の調査、および関係者への聞き取り調査を実施する。(3)の作家、作品の比較分析とは、ディアスポラ作家と作品の比較検討や、韓国文学との比較により、複雑な権力関係を背景とした、各作家、作品の差異と共通点を探求することである。その基礎となる1940年代から1970年代までの在日、在米朝鮮人文学に関する基礎研究を進める(4)ディアスポラ文化、文学に関する資料整理では、資料集や目録作成という、今後の研究の進展に貢献しうる基礎研究を行う。これら四つを組み合わせて、三地域の言語の交錯が起きた40~60年代の「朝鮮文学」の変形と広がり諸相を解明する。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究の具体的研究成果については、資料調査、インタビュー調査、成果発表にわけられる。

資料調査においては、在日朝鮮人文学関連では高麗美術館（京都）、プランゲ文庫（メリーランド）、朝鮮系や日系米国人および米軍通訳関連では National Japanese American Society（日系米人歴史協会資料館、サンフランシスコ）、米国国立公文書館（サンフランシスコ）、UCバークレー校バンクロフト図書館（サンフランシスコ）、米軍防衛語学学校資料館（モンレー）、韓国移民史博物館（仁川）、米国国立公文書館 NARA（メリーランド）、ディアスポラ研究関連では、神戸華僑歴史博物館、福岡の林えいだい記念アリラン文庫を訪問して資料渉猟を行い、新資料の発掘を行った。

インタビュー調査では在日朝鮮人文学関連（金民氏関係者、尹紫遠氏関係者、韓丘庸氏、雑誌『大村文学』関係者）、米軍通訳関連（北影一氏関係者、元 GHQ 通訳の家族）、コリアン・ディアスポラ関係（サハリン（ロシア）、安山（韓国）でのサハリン朝鮮人たち）などを行った。これらにより、ディアスポラの言語や翻訳の問題を比較考察するうえでの貴重な証言を得た。

成果発表については、学会報告と論文や著書の刊行を行った。

学会報告では、日米の朝鮮人米軍通訳比較（ソウル）、在日朝鮮人文学（東京、ハワイ、ソウル、サハリン）に関する報告を日本国内外で行った。

論文、著書の刊行については、これまでの資料、インタビュー調査の成果を踏まえ、在日作家研究、米軍通訳の実態研究、米軍通訳文学研究に関する論文を日本と韓国で発表した。この間に韓国で刊行した在日朝鮮人文学史を論じた単著は、韓国の学術賞を受賞した。在日朝鮮人文学関連資料集の刊行、朝鮮文化通史の英語から日本語への翻訳刊行も行った。

#### (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究では、朝鮮（韓国）、日本、米国の三つの地域と言語をカバーした比較研究を行った。朝鮮人通訳・翻訳者の実態解明は、非英語圏植民地出身者の経験を検証したことで、ポストコロニアル翻訳理論の深化に貢献するものである。また、従来の地域的な分断を超越する空間軸の設定は、米国や韓国におけるコリアン・アメリカン研究のみならず、日系アメリカン研究を含めた包括的な米国移民研究に新しい視点を提供すると期待される。戦前・戦後／植民地期・植民地以後をまたぐ時代設定をしたことで、従来のような日本 - 朝鮮の二者間だけで近現代朝鮮文学を論じるのではなく、米国の影響も加えたより広い視野からの研究の可能性を提示した。個別に行われてきた在日朝鮮人文学研究、韓国文学研究、コリアン・アメリカン文学研究に、「複数の朝鮮文学」という新しい視点を具体的な根拠とともに提供すると同時に、関連する日本の移民研究、植民地・ポスト植民地研究、日本文学研究にもインパクトを与えうると考える。

#### (3) 今後の展望

本研究で得た知見、資料を整理し、著作や資料集を刊行する予定である。また、本研究の研究成果を踏まえて、今後は旧ソ連（ロシア・中央アジア）を加えた日・米・ソの三地域のコリアン・ディアスポラの比較文化・文学研究を行う。これにより、日本による植民地支配、米軍とソ連軍による占領、冷戦対立、朝鮮戦争を経験した朝鮮人による、冷戦期におけるデ

ディアスポラ文化の生成過程を解明したい。朝鮮語識字、教育、文芸、翻訳、検閲、ジェンダーを手がかりに比較考察することで、在日朝鮮人文学を含む各地域のコリアン・ディアスポラ研究、韓国文学研究、朝鮮民主主義人民共和国文学研究のみならず、翻訳研究、ディアスポラ研究の深化にも貢献したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 22
2. 論文標題 在日朝鮮人の占める空間をめぐる：検閲・カノン・女性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『クアドランテ』	6. 最初と最後の頁 79 - 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 17
2. 論文標題 GHQ内の朝鮮人通訳たち：検閲・非常事態宣言・朝鮮戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』	6. 最初と最後の頁 20 - 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 16
2. 論文標題 移動とマルチリンガリズム：OSS文書からみた太平洋戦争期のコリアン・アメリカン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アジア太平洋レビュー』	6. 最初と最後の頁 18 - 33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 15
2. 論文標題 「朝鮮近現代史とトライリンガリズム：1940年代の朝鮮人米軍通訳」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』	6. 最初と最後の頁 2 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 15
2. 論文標題 「金民論 在日朝鮮女性を描いた小説家」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』	6. 最初と最後の頁 2、11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 111号
2. 論文標題 「金石範文学におけるスパイ、通訳、アメリカ：複数の朝鮮文学をつなぐために」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本學報』 (韓国日本学会)	6. 最初と最後の頁 95、109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「李恢成の文学世界と原点としてのサハリン」
3. 学会等名 サハリン国立総合大学、山形大学共催シンポジウム「文化の交差点：文学と歴史から見たサハリン」 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「「革命」の記録としての在日朝鮮人文学史」
3. 学会等名 第四回延世韓国学フォーラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「在日朝鮮人文学」と脱植民地化、南北分断、バイリンガリズム」
3. 学会等名 在日コリアン文学研究シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「Bilingualism in Zainichi Korean Literature: An Alternative Literary History」
3. 学会等名 ハワイ大学マノア校コリアンスタディーズ研究科（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「リチャード・キムと北影一 コリアン・ディアスポラ作家の日本と米国体験 」
3. 学会等名 朝鮮学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 宋恵媛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ソミョン出版（韓国）	5. 総ページ数 436
3. 書名 「在日朝鮮人文学史」のために（朝鮮語）	

1. 著者名 キース・プラット著、宋恵媛訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 482
3. 書名 『朝鮮文化史：歴史の幕開けから現代まで』	

1. 著者名 宋恵媛（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 緑蔭書房	5. 総ページ数 1182
3. 書名 『在日朝鮮文学会資料集（1945年 - 1960年）』（在日朝鮮人資料叢書17）、1, 2, 3巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----